

新潟大学脳研究所 神経内科学分野

准教授 金澤 雅人

A Novel Acute Phase Diagnostic Biomarker for Classifying a Subtype of Ischemic Stroke

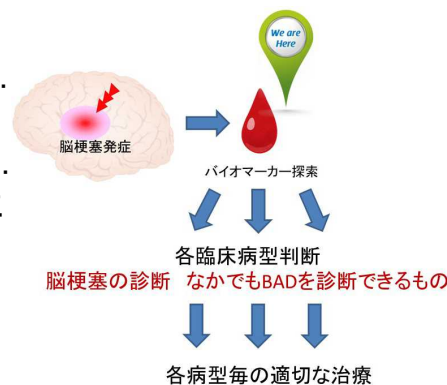
急性期脳梗塞病型分類のための新規バイオマーカー

【キーワード】

脳梗塞	BAD	早期診断	診断キット開発	予後予測
-----	-----	------	---------	------

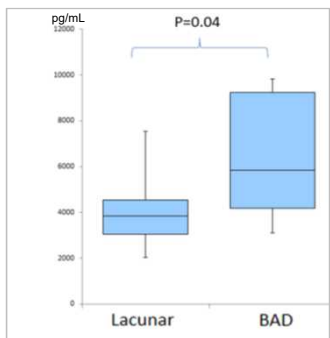
■概要

脳梗塞はいまだに死亡率が高く、後遺症により社会的負荷が大きな疾患である(本邦の死亡原因第三位, 年間発症本邦30万人, 全世界1500万人). 脳梗塞では, 症状が進行するタイプの病型(Branch Atheromatous disease, BAD)があるが, どのような症例で, 症状が悪化するのかわかっていない. BADは, 全脳梗塞の10%を占めるが, 入院時には, 病型を正確かつ簡便に判断することが現状ではできない. そのため, 治療戦略を定まっていな. **我々は, 脳梗塞の発症時の血液検査から, BAD病型を予見するバイオマーカーを見出した.** さらに診断キット作成も考えていく.

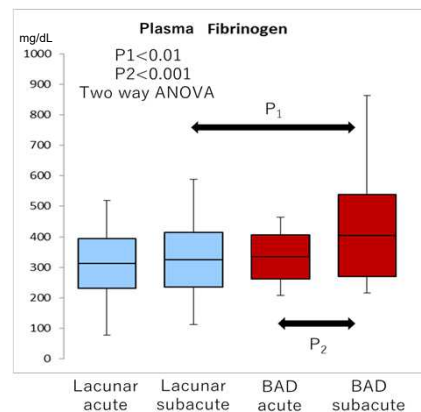


■詳細/トピック

- ・脳梗塞急性期 炎症↑ 炎症を反映して血中フィブリノーゲン値が発症2週間後には, BAD病型では上昇する(類似病型ラクナでは上がらない, 右図)
⇒入院時点では, フィブリノーゲン, 一般的な炎症反応では病型診断はできない!



フィブリノーゲンの上流に位置するあるペプチドに注目したところBADでは, 入院時(脳梗塞発症24時間以内)から, ラクナ梗塞と比べて有意に高値であることを見出した(左図, 特許出願済)



○競合研究に対する優位性

- ・脳梗塞発症時のバイオマーカーで, 血液検査で行えるため, 開業医レベルでも診断可能となる.

○想定される実施例、応用例

- ・心筋梗塞マーカートロポニンのような**脳梗塞の診断マーカーを確立し, 特許出願, 検査キット開発**を目指す.

■応用を期待する分野

- ・ELISA, ELISpotのノウハウを持つ試験試薬メーカー

本技術の問い合わせ先

新潟大学 地域創生推進機構

TEL: 025-262-7554 FAX: 025-262-7513 E-mail: onestop@adm.niigata-u.ac.jp